



帝室博物館模型・新に造營せらるゝ博物館は東洋風を加味せる近代様式として募集した設計案を基準としたもので、延約3,000坪、高さ地上100尺、豫算約700萬圓の大建築である。

博物館造營工事に寄せて

宮内省 帝室博物館造營課長 北 村 耕 造

四月十八日、春色うらゝなる日、花吹雪の上野公園に博物館造營工事場の北村課長を訪ふ。上野大師の横の黒板扉に沿ふて工事場内に入ると、九千坪の大建築造營工事とは思はれぬ静けさである。材料搬入、根切土搬出のトラックだけが時々疾走する。

課長室は粗末なバラック建、如何に現場と云へ東京市内の大工事で斯んなのは些か意外である。廻轉椅子からはみ出る様な巨體の北村課長は靜かに語る。

○

御覽の通り、博物館造營工事はまだ根切りに着手したばかりで、工事らしい工事に達して居りません。だからお話し申し上げる程のことありません。

宮内省で施工する工事も、御大典等の臨時工事は別ですが、その他の近代的な造營物は市内の大工事で殆んど變つた處がありません。以前は宮内省の工事と云へば、市内の工事と變つて特異なものゝ様に考へられてゐましたが、この十年間の我國建築界の發展につれ、宮内省の工事も他の諸官廳や一般市内の工事と變りなくなりました。

近くこの工事も本格的に進みますが、さうなると鐵骨工事のリベットの音も騒々しく響いて、工事場らしくなませう。こゝではコンクリート工事にはウォーセクリーターの設備をいたします。嚴重な強度試験もいたします。ポンプクリートも使用したいと思つて居ります。

○

さうなると全く市内の高層建築工事で殆んど變りない狀況を現出するであらう。否むしる市内の一流工事よりも以上に進歩した工事設備が採用されんとしてゐる。

記者は宮内省工務課長時代の北村氏がすでに早くから工事畫報社工事研究會のスランプテスト用具やモールドを使用されてゐた事を思ひ浮べて、宮内省のコンクリートが精確さに於て先覺的なものであると思つた。

○

博物館は一種の記念物的な建築なのですから、中心となるべき構造を堅固にすべきは云ふまでもありませんし、特に外觀上の仕上を充分丁寧に、さうして綺麗に仕上げねばなら

んのですが、之がなかなか思ふ様に行かないので困ります。

以前は一流の請負人に工事を請負はせると充分立派に仕上げたもので、それで安心出来たのですが、今日では競争入札の結果、非常に安價で請負ふものですから、たとへ一流の請負者であつても、仕事はどうしても粗末になり勝ちなのです。示方書に書いた仕上り程度と云ふものが、所謂程度問題であつて、金をかければかけただけよき仕上りが得られるわけですが、無暗に安値で請負ふから豫算はあるのに充分な仕事が出来ないと云ふ結果になります。

この困つた傾向は、今日競争入札の行はれ

る至る處の工事で問題となつてゐる様ですが特にこの建築の様な性質を持つものに對しては、今後遠からずの内に、合理的解決方法が講じられねばならぬと思ひます。

○

なる程、後代何千年の後までも残さるべき國家の代表的建築であるから、豫算が餘つてゐ、充分な仕事をしたにも拘はらず、それが使用出来ないと言ふのは大きな矛盾と云はねばならぬ。而して特に博物館造營工事に就ては速かにこの矛盾を解消して、後代に傳へるべき藝術の殿堂としての偉容を持たしめねばならぬと考へる。學界及び業界にとつて之が解決は一日もゆるがせに出来ぬ問題であらう。記者は一々北村課長のお困りの事情に共鳴して辭した。

耐震構造の過去及將來を想ふ

帝大地震研究所 齊 田 時 太 郎

耐震構造の研究は其進歩發展の大に見るべきものありとはいへ、深く地震動及構造物の振動性能を解明せざる限り、其理論たるや根底薄弱にして自信ある設計を不可能ならしめ従て曖昧なる安全率を用ひ、内に經濟的外に耐震的不満と不安とを残しつつあるのが現在の状態である。因て過去の回想も將來への希望もこの不満不安を中心として述べらるべきである。

關東大震災は、概して鐵骨及鐵筋コンクリート構造の耐震性大なるを示し、技術界に多大の信頼を與へると同時に、コンクリートの強度に就て、從來の安價なる過信の夢を醒めしめたるも亦震災の大なる賜と云ふべきである。其結果強度増進の機運は理論的及經濟的要求にあらはれ、特に工事畫報社の貢献も少くなかつたのである。

地震動及構造物の振動性能の闡明は根底的にして、其等の研究の盛ならんことを望むは勿論なるが、今當面の研究事項として次の數

項をあける。

(一) 鐵筋コンクリートの耐震的不測の危険を顧慮して、從來の單なる許容應力に對する平衡安定の理論を進んで破壊現象までに及ぼすこと。

(二) 鐵骨を入れた鐵筋コンクリート構造に於て、鐵骨、鐵筋の負擔すべき應力を解明し、合理的經濟的設計の指針を與へること。

(三) コンクリートの自重を輕減することに就ての工夫。

(四) 建物の平面中心と自重の中心との一致せざるときの振力分布の解決。

(五) 目下深層地階を有する建物の出現せんとするにあたり、地表と地中との地震動の相異及從來の土壓理論の改善。

(六) 土木建築構造の研究に於て實物及模型による實驗の盛に行はれて理論と實驗との融合。

(以上)